

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	阿倍野区
学 校 名	大阪市立高松小学校
学校長名	福村 恭央

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・高松小学校では、第6学年 95名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○令和6年度の正答率は国語、算数、（R4理科）共に全国平均を上回っており、本年度も国語、算数、理科共に全国平均を上回った。また、平均無回答率は、本年度も国語、算数、理科共に全国より低い。
 ○令和7年度より算数科を中心に学びたい気持ちを高めるために習得内容を活用できるような授業づくりをしている。その結果、児童は主体的に協働して学ぶことで、問題の解き方が分からないときは、いろいろな方法を考えたり、工夫して小数や分数の計算したりできている。今年度も学力向上支援チーム事業でスクールアドバイザーの指導のもと、確かな数学的表現力が身に付くようにさらに学びの改善を図っている。
 ○児童の学習態度は、学年が進むにつれて安定し、確かなものになっている。異学年交流を中心に児童の人間関係・規範意識の育成を図り、学級指導で授業態度面や基本的生活習慣の定着の基盤を構築し、全教科を通して「主体的・対話的で深い学び、個別最適と協働的な学び」をめざした授業改善を図っていく。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】平均正答率は5.2ポイント全国平均を上回った。「学習指導要領の内容」では【知識・技能：書（2）情報の扱いに関する事項】（全国平均より-1.9）を除いては、全ての事項において、全国平均を2.1～7.9ポイント上回っている。

【算数】平均正答率は7.0ポイント全国平均より上回った。全ての事項において、全国平均を4.4～10.3ポイント上回っている。

【理科】平均正答率は、3.9ポイント全国平均より上回った。全ての事項において、全国平均を0.2～6.6ポイント上回っている。

3教科が全国平均を上回った要因は、目的に応じてICT機器の活用を行い、児童が考えや思いを表現し、肯定的に相互評価する場を設定することで、個別最適と協働的な学びが実現するように努めたことと、児童が授業やテストで困ったところや、理解していないところがあったとき、教員は児童の質問に対し、丁寧に説明していたからだと考えられる。

質問調査より

調査結果から3教科が全国より平均正答率が上回ったものの、国語科の【(2)我が国の言語文化に関する事項】は1.9ポイント下回っている。「国語の勉強は『好きですか』『得意ですか』」の質問に対し、肯定的回答が他の質問項目よりも低い。「わかる、できる授業」に加え、「楽しい、もっと取り組みたい授業」づくりに努めていきたい。

そのために、単元のルーブリックを作成し、児童と単元の初めに共有しておくことで課題解決に向けて自分に合った「方法」「学習時間」などを児童自らが調整できるようにしていく。全教科を通して「どのようにして、何を学んだのか、何を次の単元に生かしたいのか」と児童自らが各教科の見方・考え方に基づいた気付きのある授業や単元後の振り返り活動を展開させ、児童の主体的に学ぶ姿勢や学習活動で気付いた新たな価値をクラス全体に認め広げるようにしていく。

今後の取組(アクションプラン)

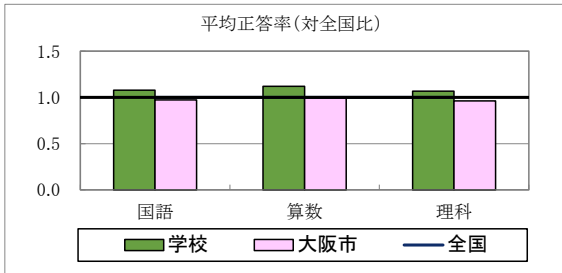
○研究主題「学びたい気持ちを高めるための授業の創造—算数科における自分の考えを表現しなくなる授業のしかけ—」により、全員授業を実施する。スクールアドバイザーの指導のもと、研究主題に迫ることができるよう個々の教員の授業改善をめざす。昨年度に引き続き、言葉の力を育むために読書活動推進に向けて「読書ノートへの記録」「朝の読書週間」「この本いいね」「20分休憩の図書館開放」を今年度も継続実施する。

○若手教員に対してスクールアドバイザーの指導のもと指導力向上をめざす。中堅、ベテランの教員に関しては校務の具体的指標、各々の強みや得意を共有し、チーム学校として互いが協力し工夫することで、一人一人がやり甲斐を実感し、主体的に働くことができるようにしていく。安心安全を基盤とした学校運営の計画を確実に推進していくために、地域・阿倍野区内の学校と協調した取り組みをさらに進める。

【 全体の概要 】

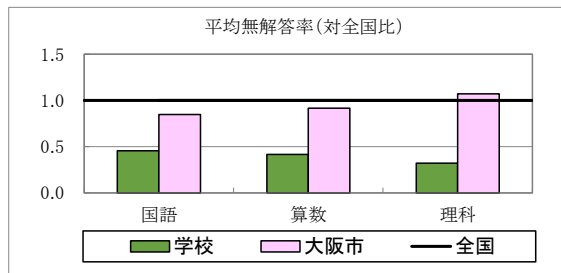
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	72	65	61
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	1.5	1.5	0.9
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



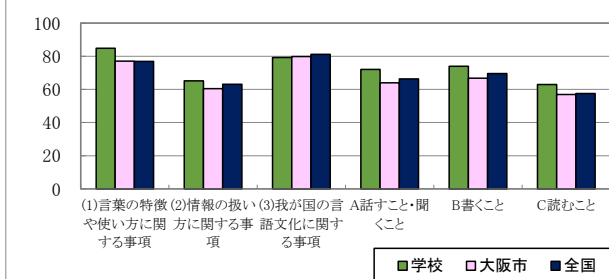
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	84.8	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	65.2	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	79.3	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	72.1	64.0	66.3
B 書くこと	3	73.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	63.0	56.9	57.5

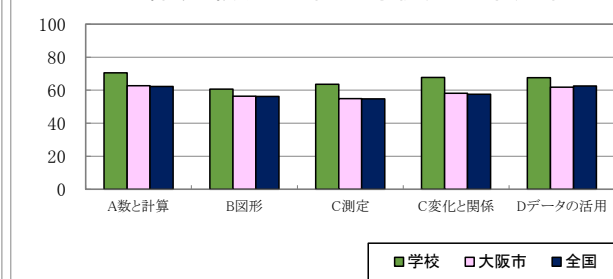
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	70.5	62.7	62.3
B 図形	4	60.6	56.4	56.2
C 測定	2	63.6	54.9	54.8
C 変化と関係	3	67.8	58.2	57.5
D データの活用	5	67.6	61.9	62.6

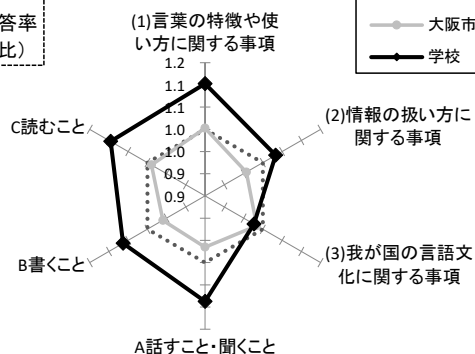
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



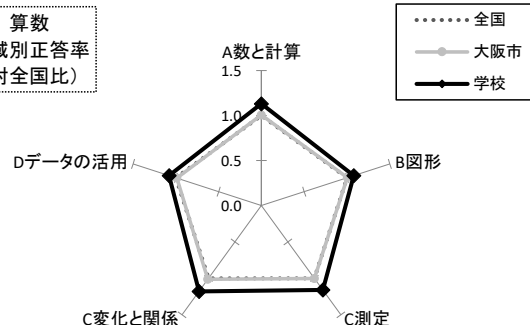
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

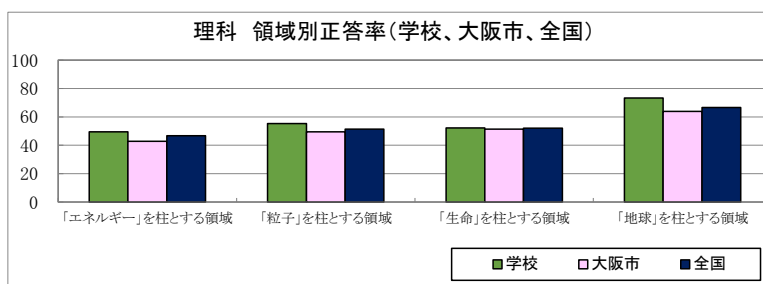


算数
領域別正答率
(対全国比)

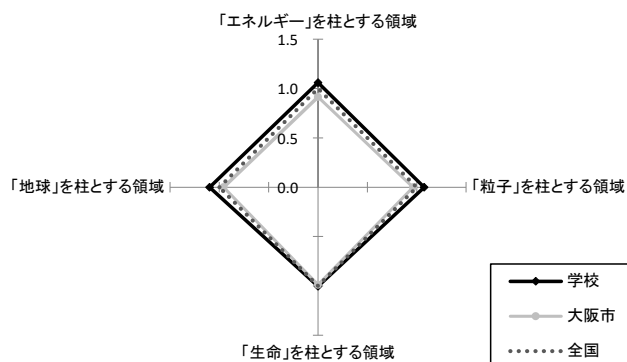


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	49.5	42.7	46.7
	6	55.3	49.5	51.4
B 区分 「生命」を 柱とする領域	4	52.2	51.4	52.0
	6	73.3	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



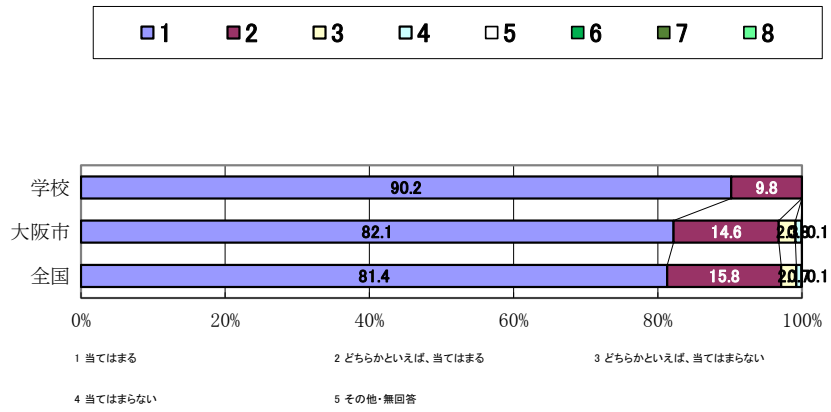
児童質問より

質問番号

質問事項

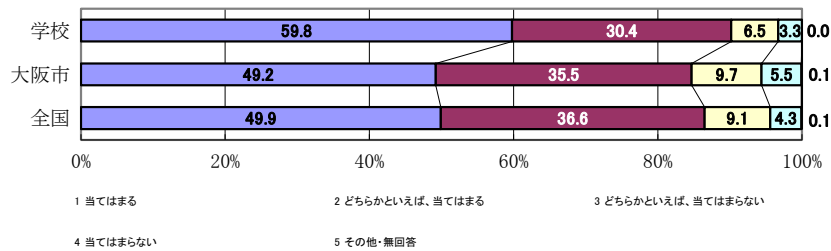
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



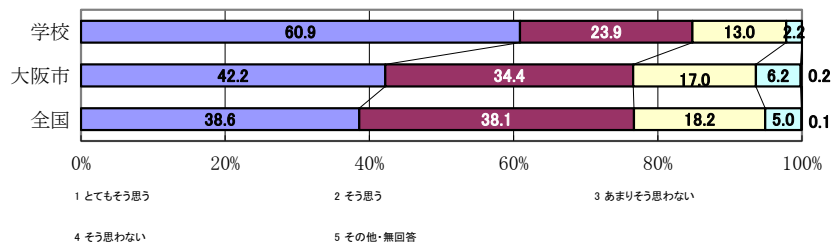
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



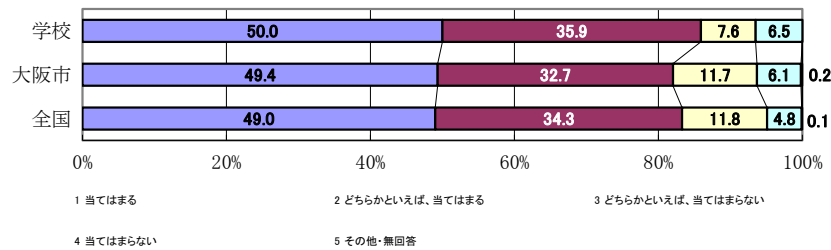
75

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか



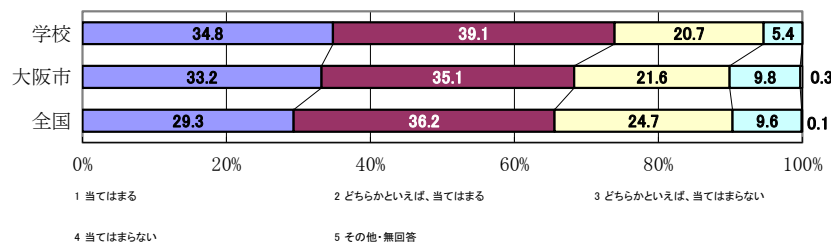
56

算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか



58

算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか



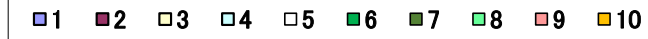
学校質問より

質問番号

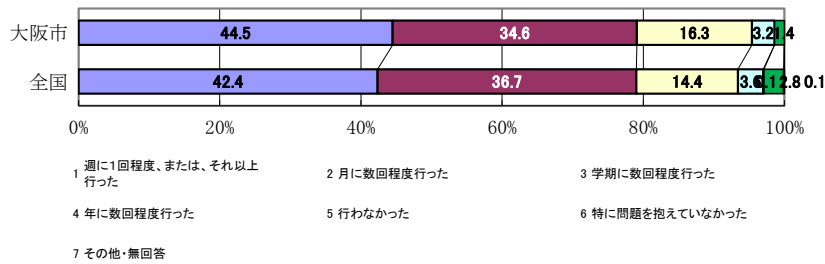
質問事項

11

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか



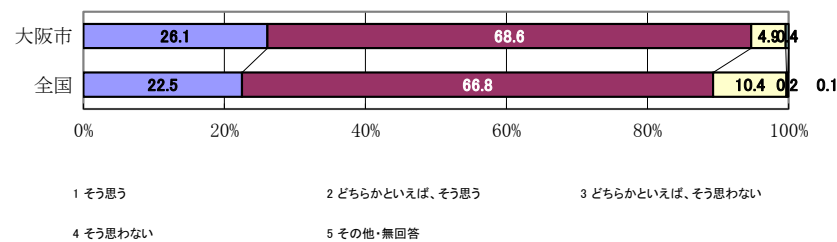
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

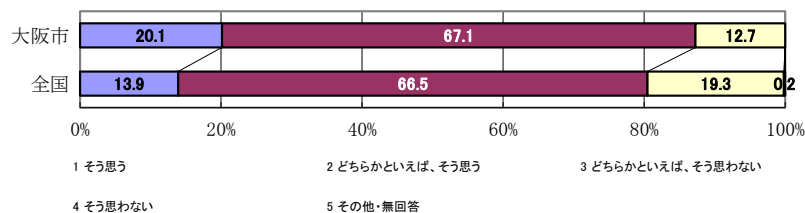
学校 「そう思う」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

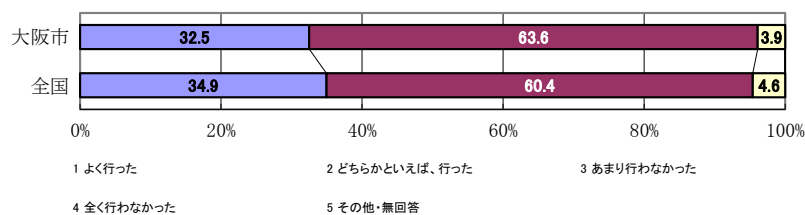
学校 「そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



33

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択

